

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 1 column: 基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1. 理念のある支援により、利用者さまの人権と生活を守ります。
2. 「マスローの欲求」を指標とし、利用者様が自立感・満足感のある生活をおくれるようにします。
3. さりげなく丁寧な支援ができるように職員の人間力及び職員連携の向上を目指します。
4. 利用者様の安全支援として①重複支援を避ける②ひとつの支援に最後まで責任をもつ③職員間同士でコーチングすることを柱に取り組んでいます。
5. 地域貢献できる事業所を目指しています。
6. 施設内勉強会を充実し、考える力と実践できる能力を向上します。
7. 災害対策(感染・危機管理)に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者が今欲していることを理解し日常の支援に当たっている。痺い所に手が届く支援の実現に向けて全職員で取り組んでいる。
・人生の最期まで寄り添う支援に心掛け、安心して暮らせるように努めている。
・協力医との連携が取れており緊急時でも対応できる体制であり医療面でも24時間安心して過ごすことができる。
・利用者一人ひとりの人生を知り状態変化に合わせてプランを変更して、その人の望む生活が送れるように全職員が取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Contains rows 56-63 with detailed descriptions and evaluation points.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある「かゆいところ」はマスローの5大欲求を指標とし職員全員で共有を深めている。利用者様の欲求を満たす「理念のある支援」ができるようチームで取り組んでいる。	理念を玄関に掲示しており、かゆい所に手が届く介護の実現に向けて全職員が取り組んでいる。利用者の今の欲求が何かをみんなで話し合っ、過不足なく支援している。なぜそこに支援が必要かを考えて、日々支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、ご近所の方とは挨拶程度で、地域交流を生かした生活には至らなかった。そんな状況であったが、野菜や花の差し入れを頂いた。	コロナ禍で地域との交流が少なくなっているが、隣人から野菜や花をもらったり、近くの小学校から花のプランターが届けられている。運動会には記念品を配るなど関係は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学校運動会への記念品進呈、福祉活動の受入れ、老人会婦人部等からのさし入れ等、協力体制はコロナ禍でも継続している。直接の交流は控えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、現状報告やテーマを設け意見交換し運営の一助としている。コロナ禍の中、家族からの面会中の要望等は貴重であった。また感染ステージに応じ、書面開催を取り入れた。	対面や書面で開催されている。委員から意見などを聞いている。窓越し面会の時は職員に席を外してほしいという意見があり、プライバシーを考え感染状況に応じて対応するようにした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での相談報告、随時事故報告等行っている。互いに協力関係が必要なことを担当者と話している。	補助金申請についてなどわからないことがあれば、電話をしたり出かけていくなどして相談をしている。推進会議でも相談したり要請を受けたり話しやすい関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護者本位の不適切な支援にならないことを念頭に拘束防止に努めている。スタッフでの身体拘束廃止会議会等で確認をしている。	2ヶ月に1度虐待や拘束について全職員自分の行動を振り返り、報告書を提出し確認している。帰宅願望の利用者には話をよく聞いたり一緒に歩いたりして行動を抑制することなく安心できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	無自覚で不適切な言動や支援により、利用者様が苦しんでいることがないかチーム内で検討し、虐待防止に努めている。また日頃から現場でのストレスの声を聞き、気持ちの表出を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の意向にそった自立感のある生活を守ることや物品管理等、日頃より権利擁護を念頭に支援している。また成年後見制度を利用される方がいるので、制度を都度々学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	双方に不利益が生じないように重要事項の説明をする。特に利用料、契約解除、事故リスク等は十分な説明を実施し、相談も随時受けつけて対応している。料金改定時は、電話や文書をもってお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で聞かれる「職員が気づかないこと、ご家族ご利用者様の思いの言葉」を、運営に反映させた。(例えばコロナ禍における面会中のプライバシーへの配慮等)	来所時や電話で意見や要望を聞いている。家族からの意見でプライバシーに配慮して面会時席を外すようにしている。写真を添えて毎月手紙を家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場運営はスタッフの主体性を重視し、個々の意見や考えが反映されるように話し合い、柔軟に運営している。そこに理念や発想力のある運営であるかを常々考えている。	困ったことがあればいつでも聞いて相談に乗っている。勤務体制についての要望を聞くなど、職員から意見や提案を言いやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	濃厚接触者等の場合、休業要請手当てか有給の選択ができるようにしている。また勤務希望は可能な限り対応し、有休取得率も高めている。人事考課は定着しているが、更なる向上を模索している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の職員育成は職員間の指示系統、意見交換を重視している。また職責学習を目的に月リーダー制を実施している。その中で判断力・折衝力・計画力等を高め人事考課で振り返りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と、運営状況等の相談を行いサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に伴う心情について、お気持ちを傾聴することから始めている。「安心できる支援者」と認識されるような関係作りを共通の地域や知人の話題を介しながら進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期は家族の不安や要望を遠慮なく伝えて頂けるよう電話報告や面会時の説明を密にしている。不安軽減を図る説明で、良い関係づくりをすすめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に入居初期には、ご本人・ご家族の不安や要望をチームで検討し、医療支援も交えながら、安心感のあるサービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様とは互助関係であることを伝えながらコミュニケーションを図り、笑いの多いおだやかな時間がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍による限られた逢える時間は、家族の理解や協力を深め、本人を支える時間につながった(面会の尊さ、コロナ収束後の楽しみを語る場面が多かった)。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のなか、面会を中止することなくできる方法で実施した。面会できる柔軟な対応に感謝のお言葉を関係者より頂いた。	ビデオ通話でいつでも家族と交流出来ている。コロナ禍においても看取り時では家族だけでなく親族も直接部屋で会うことが出来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等の関係性に配慮しながら、和らぎのある雰囲気作りをしている。利用者間の不満事にはさりげなく対応し、早期解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、本人やご家族の相談相手になっている。		
人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の要望や自己決定を我慢することがないように声かけし、得られた情報を共有している。また意向表出の困難な方には、これまで積み上げたフォーカス支援から最良と考えられる支援をチームで提供している。	入居時これまでの生活など多方面の情報をアセスメントにまとめ職員で把握している。その都度の新たな欲求は申し送りに書き留めみんなで情報を共有している。利用者は我慢することなく欲求を訴えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からこれまでのエピソード等をお聞きしながら、大切なことや苦手なこと等を把握し、支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援の中から、ご本人の生活への意向・体調・動作能力等をチームでフォーカスし、線の視点をもって把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の課題とその支援については、ご本人・家族の要望、マズローの5大欲求を基に日々フォーカスし、チームで計画立案し展開している。評価としては現状に即するものとなっている。	リーダーは毎日状態を確認しながら支援の目標を立てプランの変更につなげている。毎日ミーティングで話し合い、家族の意見を取り入れながら計画作成をしている。状態が変わればその都度プランの変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の要望や問題点はフォーカス方式で計画立案し、統一した支援と記録をしている。そこで得た結果を申し送り等で共有して、支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望や身体状態に応じて、自宅帰りや買い物支援等、限られた人員配置の中で臨機応変にサービスを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入会しており、毎年獅子舞等の訪問等、行事の際には声をかけて頂いていたがコロナ禍で中止。地域との協働を図るには難しい期間であった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の往診時にはご本人をフォローしながら主治医に報告相談している。経過は随時ご家族に報告している。また必要に応じて家族には受診時に同伴して頂く。	入居時これまでのかかりつけ医か協力医かを選ぶことが出来る。隔週1回協力医の訪問診療がある。突発的な受診は職員が同行し結果を家族に報告している。訪問看護を利用し、途切れない医療の提供に安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の要望や体調変化等を看護職に随時相談し、早期改善を目標に健康管理に努めている。訪問看護師との連携も密にし、終末期の苦痛の緩和等に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設情報書によりご本人が入院生活で困らないようにしている。また心身機能確認を随時実施し退院後の生活に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の終末期への意向を自己実現とフォーカスし、早期から家族や主治医と共有している。ご本人の「ここで最期を迎えたい」という気持ちに応えられるよう、家族や医療関係者、スタッフが終末期を支えている。	入居時重度化した場合の施設の方針や家族の希望など確認している。状態が変わればその都度話し合っている。病院や特養に入るかここで最期まで暮らすか選択できる。施設では自然に看取るよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に発熱や疼痛、循環不全への初期対応の方法については、現場で役立つことを身につけられるように指導している。体調変化の早期発見ができる観察力・判断力は向上している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画の作成と訓練、災害時情報共有システムの災害想定訓練等求められることが多いなか、現状をふまえ確実に取り組んでいる。課題はガス方式による非常電源の設置ができていないことである。	山が近く豪雨や土砂災害想定避難訓練を行っている。火災避難訓練を年に2度、土砂災害避難訓練は年に1回行っている。気象のアプリを使い雨や風の予測を立て災害に備えている。備蓄は施設内に3日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人生を想いながら、人格や自尊心をフォーカスし生活を支えている。接遇では「ですます調」での言葉使いを約束事としている。	年上の人として普通に接するよう心掛けている。入室時にはプライバシーに配慮し声をかけてから入る、トイレ誘導にはプライドを傷つけないようにさり気ない声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が我慢しないように要望を聞いたり、自己決定できる声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、個々の体調や気分、要望に合わせた個人の生活となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択等は自己決定できるように声かけている。スキンケアや髭剃りの仕上げを手伝ったり、ご本人の好きな色等を把握し、プレゼントの服等を準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策として、利用者様と職員の食事時間は別々にしている。またスタッフでの手作り食事dayを設け、季節物や思い出深いものが食べられる楽しみがあるようにしている。	昼と夜の副食は厨房より届いている。月に1回利用者の要望を聞いて手作りの食事を提供している。近所よりもらった野菜などをメニューに加える事もある。季節の行事食もあり利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じた食事量の準備や水分補給をしている。特に隠れ脱水には注意している。個々の食材に対する嚥下状態の確認や自力摂取できる食形態の工夫を職員サイドで柔軟に調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔は、感染予防等身体によいことと理解して頂き、毎食後の歯磨き等を習慣化できている。また嗽いや洗浄剤等の使用を徹底し口臭等にも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートから個々の排泄パターンを把握し、さりげない声かけ支援で自立を促している。尿意便意が弱い利用者様においてもトイレに座って頂き、自立感が継続できるようにしている。	ほとんどの利用者がトイレ使用である。導尿している人もトイレに行っている。この自立した状態を維持できるよう支援に努めている。排泄パターンにより声掛けを行っており尿意を訴える利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤服用時間は個々の反応時間等に配慮している。また自然排便ができるように、飲水追加や可能な限りトイレに座って頂いている。その際ウオシュレットやマッサージ等、時間をかけた支援を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の高齢化や重度化が進む中、個人の要望、体調にそった入浴支援を実施している。以前より入浴支援の比重が高い中、お風呂が楽しみとなるよう関わっている。	週2回の入浴である。拒否する時は無理強いないせず、日を変えたり声掛けの仕方を変えたりしている。冬場はヒートショックを起こさないように脱衣場や浴室の暖房に気を付けており、快適な入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の休息は、体調や意向から好きな時に休めるようにしている。電気毛布等本人の好む物 室温照明等に配慮し、睡眠が得られるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の状態変化等をフォーカスし、適切な薬物療法となるよう服薬量や服薬時間等、主治医と連携し個別に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	オブジェクト作り、裁縫仕事、日記、訓練等それぞれが望む楽しめる時間を個別に提供し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中、以前のように日常的な外出支援ができなかった。そんな中、受診時の外出機会に自宅を見に行ったり、買い物をする等の支援に努めた。	コロナ禍で密になる車でのドライブは避けている。利用者は施設の外に出て、新鮮な空気を吸いながら野菜や花を眺めて四季を感じている。病院への受診時少し自宅の様子を見たりアイスクリームを食べるなど気分転換にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額所持は家族同意のうえフリーにし、お金を所持する安心感、自己管理の価値観を大切にしている。また買いたい物がある時は個人にあった方法で購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、原則「すぐに支援」としている。日頃の会話には逢いたい人との話し等を盛り込み、孤独感の少ない支援に努めている。通信環境を整え、スマホ等でビデオ通話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える内外は、季節を感じる草花やオブジェを皆で作成しアメニティを高めている。また共有のトイレや浴室等は清潔感を第一としてしている。歯磨きセット等はいつも同じ場所に置き混乱ないように配慮している。	四季折々の行事風景など利用者と一緒に壁面飾りを作成し季節を感じることが出来る。リビングにはソファが置かれ利用者同士ゆっくり過ごすことが出来る。手洗いの励行や換気に留意して感染症対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングでは、各利用者様がソファに腰かけリラックスした姿が毎日見られる。テーブル席は相性やエアコン風等を考慮した配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は癒しの場となるようにご本人やご家族の要望を聞きながら、使い慣れた物や誕生日の写真等で整えている。またご本人の要望に合わせベッドでの臥床ポジション、照明や室温等を支援している。	部屋には暖かい日が差し込み、のどかな田園風景を眺めることが出来る。壁に作品を飾ったり、使い慣れた小物や写真テレビ等を家から持ち込みこれまでの生活と変わらないような雰囲気づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の視野、行動パターン等から、安全で生活しやすい環境づくりを日々すすめている。		